

# 学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解 (心のバリアフリー)の推進

- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催を契機として、**障害のある子供と障害のない子供が一緒に**障害者スポーツを行う、一緒に障害者アスリート等の体験談を聞くなどの、**障害者スポーツを通じた交流及び共同学習を実施**する。

障害のある子供とない子供が障害者スポーツの楽しさを共に味わい、障害のある人の社会参加や障害に対する理解を深めることにつながるような取組を推進

## ■障害者スポーツ体験型

障害者スポーツでは、障害の種類により競技ルールや用具等が異なるなど、様々な工夫がなされている。用具の形状について学んだり、実際に夏季・冬季パラリンピック競技種目等の障害者スポーツを体験したりすることで、障害に対する理解を深めるとともに、相互理解を推進し、社会参加の在り方を考察する。



車椅子卓球



ボッチャ



チェアスキー



ブラインドサッカー



車椅子カーリング



地域の取組を総合的に支援

(都道府県・市町村教育委員会等)

委託

文部科学省

●委託先件数  
25箇所

- ※モデル地域の設定(以下のいずれかを主たる研究事項とする)
- ①特別支援学校と幼、小・中・高等学校等との交流及び共同学習
  - ②特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習
- ※「交流及び共同学習」の機会については、体育を含めた各教科や「総合的な学習の時間」等での取組が考えられる。

子供たちの社会性や豊かな人間性を育み、多様性を尊重する共生社会の実現を目指す